

- 1 単元名 ことばあそびうた～よんで、つくって、つたえよう～
教材名 「ことばあそびうたをつくろう」(東京書籍 1年上)

2 単元の目標

- (1) 身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2) 経験したことや想像したこと、図書資料などから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- (3) 文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)オ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書し、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元で取り上げる言語活動

経験したことや想像したこと、図書資料などから必要な情報を見付け、詩を作って発表する。
(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領・国語の第1学年及び2学年〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項(1)ア「経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。」、(1)オ「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。」を中心に上げて指導する。

本単元では教材の詩「たべもの」を取り扱う。ここでは「ぱりぱり たくあん ぼりぱり きゅうり」といった、擬声語・擬態語の表現がたくさん出てくる。言葉の響きやリズムの面白さが読むことで伝わり、読む楽しさを十分に味わえる魅力的な教材である。さらに、音や様子を言葉(擬声語や擬態語)で表すことで、想像しやすくなることに気付き、進んで使っていこうとする態度も期待できる。

また、本単元では、この教材から発展的に様々な言葉を集めて、自分たちでも「ことばあそびうた」を作るといった言語活動を設定する。ここでは、食べ物だけでなく、音や様子が特徴的な物(例えば「生き物」「乗り物」「楽器」等)を題材として創作するという、楽しい活動を設定する。題材が児童にとって身近であれば、日常生活の中でもこれまで以上に言葉に興味や関心をもつことと、豊かな言語の獲得が十分期待で

きると考える。

(2) 児童観 ※省略

(3) 指導観

以下、研究仮説に従って進めていく。

1 課題設定の工夫：ゴールが明確な課題

導入で、詩「たべもの」を読んだ児童は、言葉の響きやリズムのおもしろさに興味を示すと思われる。そして単元の見通しをもつために、これから、一人一人がこのような詩を作り、みんなで紹介し合う学習を行うことを伝える。その際、出来上がった詩は集会や学習発表会で広く発表することを伝えることで、相手意識やゴールイメージを明確にする。活動への意欲を高めるとともに、詩を作るために言葉をたくさん集めるといふ課題意識をもって、主体的に学習に取り組むことができるようにする。

児童はこれまでも国語での詩の授業に加え、全校集会での詩の発表（7月）、そして毎月の詩語りを経験しており、伝える活動のイメージはしっかりもてると考えている。ゴールに向かって、1年生なりに「読んでみたい」「どんな詩を作ろうかな」と学習を楽しむであろう。

2 学習過程の工夫：学校図書館の活用

実際に学習を下記のように展開したいと考えている。

- ① 詩「たべもの」を活用し、擬声語から何の食べ物を表しているか想像したり、食べ物から擬態語をイメージしたりする。
- ② 食べ物の名前をワークシートに書き留めておいたり、擬声語・擬態語の例を示したりし、それらを参考にしながら各自の「たべものことばあそびうた」を作る。
- ③ 「生き物」「乗り物」「楽器」など、題材を決め、「オリジナルことばあそびうた」を作る。※自分で決めた題材で作る「ことばあそびうた」を「オリジナルことばあそびうた」と呼称する。

③では、児童は自分で題材を決め「オリジナルことばあそびうた」を作るが、その際に児童のイメージを助けるために図書資料を活用する。図書資料は、絵本や図鑑など、写真や絵が大きく載っているものを用意する。司書教諭や学校司書も選書する。また、本の紹介をし、児童全員に十分行き届く効果的な資料を準備しておく。さらに司書教諭は、図鑑の見方や情報の見付け方を指導する。集めた関連図書については、教室に置いておき、いつでも読めるようにしておく。

本校では今年度より図書館活用教育に関するルーブリックを活用している。本単元でも、児童が観点を意識して自己評価できるようにルーブリックを使用する。

3 伝え合う場の工夫：伝え合う視点の明確化

本単元では、グループでの伝え合い活動の場を設定している。伝え合いを通して、「いろいろなことばがあるな」「このことばはおもしろいな」という発見を楽しんでほしい。そのためには、「伝えてよかった」「伝わってうれしい」という気持ちの醸成が大切だと考える。

そこで、伝える際には、話し手は「特にこの言葉がお気に入り。なぜなら…」と、理由を言えるようにする。それに対し聞き手は、「よくわかるよ」「それいいね」「同じように思った」「それはどうして？」など、話し手の思いに沿った前向きな言葉で返答

できるようにする。伝え合いを通して、自分の作ったものを認めてもらったり褒めてもらったりでき、嬉しかったという思いをもつことで次の活動へのさらなる意欲につながることを期待したい。

課外の活動として、作った「オリジナルことばあそびうた」を全校児童に聞いてもらい、感想を交流する活動を行う。そこでは、いろいろな視点での思いや考えを1年生なりに受け取り、交流するよさを実感したり、「作ってよかった」という思いをもったりできると考える。

本時では、児童の思考の一助として、掲示等の環境整備や教材教具での視覚的支援を行う。特に環境整備として、ホワイトボードでの言葉集めや並行読書コーナーの設置などに力を入れる。ホワイトボードでの言葉集めでは、本単元を含む一定期間に、他教科等で見つけた擬声語や擬態語を掲示し、授業内で児童が自由に見ることができるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ	① 書くことにおいて、経験したことや想像したこと、図書資料などから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(1)ア ② 書くことにおいて、文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けている。(1)オ	学習課題に沿って、経験したことや想像したことや図書資料などから書くことを見付け、進んで詩をつくろうとしている。

6 単元の指導計画と評価計画（全6時間 本時4/6）

次	時	学習活動	指導上の留意点 (・担任 ◇司書教諭 ◆学校司書)	評価規準 (評価の観点・方法)
一	1	○「オリジナルことばあそびうた」を集会で発表するという学習課題を知り、学習の見通しを立てる。 ○「たべもの」を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・集会で発表することを意識させることで、学習の見通しをもち、主体的に取り組めるようにする。 ・「たべもの」やこれまで学習してきた詩などを活用し、言葉の響きやリズムに注目させる。 ・擬声語や擬態語の表す音や様子を想像して動作化したり、グループ読みをしたりするなど、変化をつけることで楽しみながら音読できるようにする。 ◇参考になりそうな本を選書し児童に紹介する。(「食べ物」の本)	

			◆「ことばあそびうた」を作るときのイメージを膨らませられるような資料を選書し、用意する。	
	2	○食べ物の音や様子を表す言葉をたくさん集める。 ○自分が集めた食べ物 <small>の</small> 擬声語・擬態語の中で、お気に入りのものを一つ発表し感想を交流する。	・食べ物を決め、そこから連想する擬声語や擬態語を思いっただけ挙げさせ、友達と交流することで、語彙を増やしたり、友達との感じ方の違いに気付いたりできるようにする。 ・擬声語や擬態語が思い浮かばない児童には、これまでの経験を想起させたり本を見せたりして、言葉を引き出すようにする。 ・お気に入りの理由も話すことと、受容的に伝え合うことを確認する。 ◇図書資料を活用する際に、支援に入る。	【知識・技能】 <u>ワークシート</u> ・食べ物 <small>の</small> 名前と、そこから連想する音や様子を、言葉（擬声語や擬態語）で表現しているかの確認。
	3	○「たべものことばあそびうた」を作る。 ○作ったものを発表し、感想を伝え合う。	・声にしてリズムを確かめさせながら、つなげる順序を工夫するよう促す。 ・おもしろい表現をしている児童を取り上げ、発表につなげる。 ・話す視点と聞く視点を明確に示し、伝え合うことができるようにする。	【思考・判断・表現①】 <u>作成した「たべものことばあそびうた」</u> ・伝えたい食べ物を選び、それを擬声語や擬態語を使って表現しているかの確認。
課外 (朝学習)		○「オリジナルことばあそびうた」の題材を決める。	・作成意欲を高めるような言葉がけをする。 ◇「オリジナルことばあそびうた」で活用する図書資料を紹介する。 ◆並行読書コーナーを整備する。	【思考・判断・表現①】 <u>ワークシート・行動観察</u> ・書きたいものに合った音や様子を表す言葉を連

二	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分が作りたいものの名前を見付けたり，それに関わる音や様子を表す言葉を連想したりする。 ○自分で集めた擬声語・擬態語の中でお気に入りのものを一つ発表し，感想を交流する。 	並 行 読 書 へ 生 き 物	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか，具体的なものが浮かばない児童には，図書資料の活用を促し，伝えたいものの名前と連想する音や様子を表す言葉を集められるようにする。 ・お気に入りの理由も話すことと，受容的に伝え合うことを確認する。 	想した記述の確認。 【思考・判断・表現②】 <u>発言・行動観察</u> ・作成した「オリジナルことばあそびうた」を発表し合い，よかったところやおもしろかったところなどを伝え合ったりして，自分の表現のよいところを見付けている様子の確認。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○「オリジナルことばあそびうた」を作る。 ○作ったものを発表し，感想を伝え合う。 	・ 乗 り 物 ・ 楽 器	<ul style="list-style-type: none"> ・声にしてリズムを確かめながら，つなげる順序を工夫するよう促す。 ・話す視点と聞く視点を明確に示し，伝え合うことができるようにする。 ・感想の伝え合いでは，よいところを見つけるという約束をおさえておく。 	【主体的に学習に取り組む態度】 <u>作成した「オリジナルことばあそびうた」・行動観察</u> ・発表に向けてもっとよい詩にしようとして，自分の表現のよいところを生かした記述と，進んで詩を作ろうとしている様子の確認。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○「オリジナルことばあそびうた」の発表の練習をする。 ○グループで発表し合い，アドバイスを出し合う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・前時に作ったものの感想をもとに，言葉や順序を変えてもよいことを伝える。 ・これまで記入してきたワークシートを参考にすることを促す。 ・全校集会を意識し発表できるように声がけをする。 	
課外	○全校集会で発表し，感想をもらう。				

7 本時の学習

(1) ねらい

- 「オリジナルことばあそびうた」を作るために、経験したことや想像したこと、図書資料などから書くことを見付け、それからイメージする音や様子を言葉で表現しながら、伝えたいことを明確にすることができる。

〔思考力,判断力,表現力等〕 B(1)ア

(2) 展開 (4/6 時間)

時	主な学習活動と予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (・) と支援 (◎)
3分	1 「たべものことばあそびうた」をペアで音読し合う。	・前時に作成した「たべものことばあそびうた」をペアで音読し合い、本時の活動への気持ちを高める。
2分	2 前時までの学習を振り返り、本時のめあてと学習活動を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めぴったりのことばをあつめよう。</div>	・単元見通し表を掲示し、単元の流れから本時の活動を示す。 ・本時のめあてを黒板に提示していっしょに読むことで、意識化をはかる。
25分	3 自分が作りたいものの名前を見付け、それに関わる音や様子を表す言葉を連想し、ワークシートに書く。 ・いるかは「すいすい」の他に何かあるかな。 ・ダンプカーはどんな音がするかな。 ・たこはつるつるだと思っていただけ、図鑑を見たらぬるぬるしてそうだな。	・言葉を連想しやすいようにワークシートを用意する。 ・言葉がけをして想像を膨らませる。 ◎児童の思考を助けるために図書資料を設置しておく。また、必要に応じて個別に図書資料をすすめる。
10分	4 書いたものの中から、お気に入りのものを1つ選び、グループで発表し合う。 ・わたしのお気に入りは、この「ひつじもこもこ」です。前に牧場で見たときに雲みたいにもこもこしていたからです。 ・それいいね。 ・ひつじのようすがよくわかるよ。 ・気持ちよさそう。 ・ぼくのお気に入りは、この「しょべるかー がりんがりん」です。すぐに思いつかなかったけど、図鑑を見たらそういう音に感じたからです。	・発表するのはお気に入りのもの一つとし、お気に入りの理由を話せるようにする。 ・話し手はワークシートを指さしながら、相手に伝わるように話すことを伝える。 ・作成したものに対して、互いに前向きな言葉をかけ合えるよう、感想交流の時の約束を示す。 ・机間指導で、ねらいに迫った児童の発言を把握し全体の振り返りで共有する。

5分	<ul style="list-style-type: none"> ・どの図鑑を見たの？教えて。 ・本当だね。その音がぴったりだね。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いつかなかったけど、本を見たらぴったりなものが見つかった。 ・私は「きりん ぐんぐん」と書いたけど、鳴き声を書いている友達もいて、それもぴったりだなと思った。 	<p>【思考・判断・表現①】</p> <p><u>ワークシート・行動観察</u></p> <p>書きたいものに合った音や様子を連想して、擬声語や擬態語を使って書いている。</p>
----	--	---

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
書きたいものに合った音や様子を連想し、擬声語や擬態語を使って豊かな表現で書いたり、友達と一緒によりよい表現を見付けたりしている。	書きたいものに合った音や様子を連想し、擬声語や擬態語を使って書いている。	これまでの経験を想起させたり、題材に関連する本と一緒に読んだりして、思考を促す言葉がけをする。

(4) 研究の視点

図書資料を活用したことは、「オリジナルことばあそびうた」を作るために、もの名前と連想する音や様子を表す言葉集めをする上で有効であったか。

8 研究協議の概要

参加者	校内 15 名、校外 20 名 計 35 名
授業及び研究協議の概要	<p>〈授業の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことばあそびうた」の全6時間中の4時間目が本時である。 ・1時間目に学習全体の見通し（終末に「オリジナルことばあそびうた」を作成し、集会で全校児童に向けて発表することを知らせる）をもち、2時間目には食べ物の擬声語・擬態語集めとお気に入りの食べ物や言葉を伝え合う活動を行った。3時間目には「たべものことばあそびうた」を作成・発表し、4時間目の本時では生きもの・乗り物・楽器などから「オリジナルことばあそびうた」を作成して伝え合いを行った。5時間目にはできたうたについての感想を交流し合い、6時間目で全校発表の練習を行った。 ・単元の目標は「身近なことを表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。(知識及び技能)」「経験したことや想像

したこと、図書資料などから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思考力、判断力、表現力等)」「文章に対する感想を伝え合い、自分の文章の内容や表現のよいところを見付けることができる。(思考力、判断力、表現力等)」

「言葉がもつよさを感じるとともに楽しんで読書し、国語を大切にしていふいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)」である。

- ・単元で取り上げる言語活動は「経験したことや想像したこと図書資料などから必要な情報を見付け、詩を作って発表する」ことである。
- ・単元を通して並行読書を行った。

〈協議〉

- ・1年生は単元のゴールとして、オリジナルことばあそびうたを作って縦割り班の異学年児童に発表するという言語活動を位置付けたことで、大きなモチベーションになっていた。
- ・児童がことばあそびうたを作る際の図書資料の活用は、必要な言葉を集めたり言葉のイメージを広げたりするための一助となっていた。しかし一方で、図書資料の利用が目的となってしまうと図書資料の必要感が薄れてしまう。自然に児童が必要感を感じて図書資料を利用するのが理想である。
- ・図書資料の活用を学ぶ上での入門期としての1年生には、基礎力を育てる意味でも担任のみならず、学校司書、司書教諭の協働的な指導が重要になるが、その点においても本単元では適切なタイミングに学校司書や司書教諭が授業に入ったり、選書を協働的に行ったりできたことは良かった。
- ・役割として学校司書は、ねらいに沿うようブックトークをした。司書教諭は資料の中のどこに注目して情報を見つけるかのこつを児童に教えた。役割の重要性も確認できた。
- ・伝え合いにおいても伝えたいことが明確になるように、書いたものを友達と交流できるような流れとなっていた点が良かった。その際に理由も伝えることで「自分の意見の根拠」が明らかになっていた点も良かったと言える。